

国語学概論A(二〇〇五・春・月二)

土屋博映

☆第一回 四月二一日(月)

1501教室

「諸言語の中での日本語」

1、(挨拶)「ごきげんよう」で開始。この跡見を代表とする挨拶は、絶対にするべきである。これは全講義の開始と終了時に必ずおこなった。

2、(レポート用紙配布)裏側に自己紹介を書かせる。面白く、書くことを指示。このレポートは、全講義の最初に行った。受講生をスムーズに講義にひきこむためである。

3、(受講票回収)三〇〇名近い受講生。レポート作成時間を利用しないと、回収不能になる。

4、(講師自己紹介)最初の講義なので、当然だが、アットホームな講義であることを

伝えようとつとめた。「土屋博映、昭和二四年、群馬県南牧村(現下仁田町)生れ、五六歳、高校時代まで群馬で過ごし、東京の大学、大学院を経て、三〇歳の時に、跡見学園短期大学に勤め、二六年間勤務、四月一日より遠藤先生退職の後をうけて、日本語担当として、女子大学に勤務。趣味は、早起き、以前は囲碁、マラソンなど、具体的なことが好きであること、モットーはタメの精神で、明るく楽しく元気よく生きること」、ということと、同時に「つつちー」とニックネームで呼ぶように伝える。これは親しみをもたせるため。加えて、一〇時四〇分開始だから、遅刻・私語はしないこと、ノートをきちんととること(評価の対象とする)、試験時にチェックするので、フ

アイルで1回分づつ、一五回(シラバスは一四回、これは一回分を自習とする)をまとめること、またレポートも返却するので、それもまとめておくこと、など、講義への教師の姿勢も伝えた。

5、(講義《授業》の目的等の解説)シラバスをわかりやすく説明。

6、(講義《授業》)まだテキストを購入していない者がほとんど。テキストのないものはつとめてメモするように伝える。最初なので、ゆつくりと国語に興味がわくように楽しく講義することをこころがけた。日本語の特質を学ぶと、教養がつくと同時に日本語を大事に使えるようになる効果があることを理解させる。

7、(レポート作成)「ごきげんよう」の挨拶

拶をする。講義終了時の挨拶は必ず行った。後、レポート作成。レポート用紙の表に書くよう指示。テーマは「講義への期待・希望・感想」。全講義で、講義終了時には表面（裏面は開始時に使用）に講義の感想を中心にレポートにまとめさせた。なお、全講義、全提出レポートを採点し、コメントを加え、優秀者は氏名を挙げて評価した。最優秀は○Aとし、最優秀作品は表裏ともに○Aの者で、これを評価することは、非常に効果があった。それを目標に皆、レポートに集中した。

8、(反省) 最初なので親しみやすさを心がけた。人数が多い割合にはよく聞いてくれたと思う。立ち見が沢山いる上に、抽選もれの学生が統々押しかけ、1501教室では足りない。教務と相談することにする。沢山学生がいるのはいい。やる気になる。だから原則として抽選はしない。大教室がある限り、全員引き受ける、その覚悟で講義に望む決心をする。

☆第二回 四月一八日(月)

メモリアルホール

「国語と国語学」「国語の構造」

1、(開始前) 今回よりメモリアルホールにて講義。挨拶後レポート用紙を配布。壇上まで取りにこさせる。レポート用紙に学籍番号と氏名を書くこと、履修票を本人が直接提出することなど注意。前回レポートミスの者は直接返却の上注意。用紙の一番上に、「国語学概論 四月一八日(月) 二限 第二回」と記すことを確認。裏側に、本日のテーマ「日本語について思うこと」をまづ書かせる。レポート用紙の配布等には相対時間がかかる。メモリアルホールは机が長いので、奥に入ると出にくくなる。また、教室変更を知らない者などがあり、遅刻も多く、授業がなかなか軌道にのらない。

2、(導入) レポートは一〇分ほどで終了。授業の説明。全員の受け入れをし、人数が大変増えたこと、だから、各自がきちんと聞く姿勢をもつように伝えた。続いて先週のレポートの優秀作品七名の内容紹介と評

価。全員で拍手し讃える。これは最終回まで行った。

3、(授業) 今回も初受講の学生が多いので、最初に、本書の目的と方針と、シラバスの軽い説明を交えて行う。「諸言語の中での日本語」では、日本語の特徴を知ingことを目標にする。英語(屈折語)、中国語(孤立語)、日本語(膠着語)を比較し、理解させる。

4、(レポート作成) 挨拶し、記入上の注意をし、レポート作成。テーマは「本日の感想」。

5、(レポート返却) 返却レポートは壇上に各自取りにくる。優秀者は、教師が直接返却。

6、(反省) 白板を使用したのが、反射して見にくいという意見が続出。色を変えたりする工夫が必要だ。白板は小さいので、二つほど用意してもらったほうがいいかもしれない。またレポートの返却は提出と重なって混雑する。三〇〇名のレポートはどのように戻せば効率がよいのだろうか、工夫の

必要を感じた。第二回目、大教室になり、受講生は三〇〇名以上、まだまだ遅刻も多いし、私語もかなりある。技術的な面での工が必要だ。

☆第三回 四月二十五日(月)

メモリアルホール

「国語の構造」「音声と音韻」

○早めにホール到着。一〇時四〇分からの講義だが、その時間に行ったのではまにあわない。さいわい、ホールは前の時間があるにしている、一〇時三〇分に着くようにする。

1、(レポート用紙配布)壇上左右にメモ用紙をおき、白板に「開始前に各自持つていき、レポートを書く準備をしておく」ように記す。これは雑談防ぎにも効果があると思つた。さらに用紙の最上段に必要事項を記入するように、白板で指示。まだ初受講の者も多い。テーマは「音声と音韻」について、裏側に横書きで、チャイム前から、到着順にどんどん書かせる。遅刻も出席も

取る時間がないので、レポートを書かせ、

その内容から評価するしかない。遅刻者は、結局評価が低くなる。代返もレポートならできなくなるから、その効果は大きい。チャイムの後一〇分で終了。それ以上遅刻したものは、用紙は渡さない。

2、(導入)授業についての解説。前回同様、しっかり九〇分を楽しんでいくこと、遅刻者には後で用紙を配布することを伝える。レポートの優秀作品紹介。優秀者は二三名。

3、(授業)「国語の構造」が中心。単音、音節、文節、文、文章、などの相違を知らせる。

三 国語と国語学

四 国語の構造

一 音声と音韻(第2章)

二 発音器官

4、(レポート作成)「ごきげんよう!」の挨拶後、レポート作成。テーマは「本日の感想」。

5、(レポート提出と返却)壇上の所定の場所以で行う。優秀者は教員から直接返却して

評価。

6、(反省)三回目だが、まだ初参加者が多く、遅刻・私語ともに多い。また、学生側からは、白板は見にくいという指摘、レポート返却は混雑するという不満が聞かれた。白板は、パソコン画面を使うように情報の職員の方と相談することにする。レポート返却は、優秀者の直接渡し以外は、講義前に、壇上の所定の場所で、行うことにする。

☆第四回 五月二日(月)

メモリアルホール

「音声と音韻」「発音器官」「単音」

○一〇時一五分、講義開始三五分前にホールに到着、以後この時間が固定化する。この時間から準備しないと間に合わない。前の時間が空いてよかったと思う。情報の方とパソコンの事前チェック、証明調整、パソコン設定。学生に意見を聞き、調整終了。

1、(レポート用紙配布)壇上左右にレポート用紙を置き各自持つていくよう、白板に

注意書き。開始前のテーマは「発音器官」について、裏側に横書きで書く。以上パソコンで画面に指示し、来た者から順次書かせる。チャイム後五分で終了。用紙はその後渡さない。

2、(導入) 本日の授業についての説明。前回同様、しっかりと九〇分を楽しむことを伝える。学生のレポート内容から、教師の側では、早口に注意、文字に注意することを伝える。ただし、今回からパソコン画面なので、それは大丈夫となった。学生の側では私語をやめない者には退室もあることを伝える。また遅刻者には後で用紙を配布することにした。先週のレポートミスをしたものに注意。また成績優秀者の評価。最高点は五名であった。

3、(授業) 「発音器官」が中心。「母音三角形」に興味をひかれた様子であった。

一 音声と音韻

二 発音器官

三 単音

4、(レポート作成) 終了の挨拶後、作成開

始。テーマは「本日の感想」。最後のテーマは感想中心となる。

5、(レポート提出と返却) 各自壇上の所定の場所でおこなう。○Aは教壇で受け取る。学生で早く書いたものに返却を手伝ってもらうかを考える。

6、(反省) まだまだ軌道にのらないが、パソコン画面は非常に好評の様子であった。見やすい。教師の下手な字より、ずっといい。まずは一難関を乗り越えたようだ。ただ、打ち込みは、一人でしているときよりはずっと下手になる。慣れなくては。

☆第五回 五月九日(月)

メモリアルホール

「単音」「音節」

○一〇時一五分ホール到着、情報の方とチェック。照明調整、パソコン設定、画面調整。学生に意見をもとめ、確認。その後、情報の方には帰っていた。

1、(挨拶) 「ごきげんよう！」と元気に挨拶。これが授業開始の合図となる。

2、(レポート用紙配布) 壇上左右にレポート用紙をおく、画面にその旨書いておく。後は、いつもどおり。最初のテーマは「単音」について、裏側に横書きで書く。来た者から書かせる。チャイム後五分で終了。用紙はその後最後のレポート作成まで渡さない。

3、(導入) 授業についての解説。前回同様、九〇分を楽しむ。挨拶注意、照明注意(壇上、客席)、早口注意、私語多き者は退室、遅刻者には後で用紙を配布することなど。また、レポート記入ミスをした者に注意。

レポートの優秀作品一六名の内容を紹介し、評価。

3、(授業) 「音節の構造」が中心。音節の理解がまだ不十分のようだ。反復学習をする。

四 音節

五 アクセント

一 言語と文字

5、(レポート作成) 挨拶後、「本日の感想」を書く。

6、(レポート提出と返却) 壇上の所定の場

所で行い、優秀者は教壇で受け取る。

7、(反省) パソコンで打ち込んでゆくのだが、スムーズにはいかない。しかし、それがかえってゆっくりでよいと、学生には好評だ。ところで、問題は返却である。学生で早く書いたものに返却を手伝ってもらうことを再度考える。

☆第六回 五月一六日(月)

メモリアルホール

「音節」「アクセント」

○一〇時一五分ホール到着。情報の方と前回同様チェック。

1、(挨拶) 毎回「ごきげんよう」の挨拶が授業開始の合図。

2、(メモ用紙配布) レポ用紙を各自1枚とする。最初のテーマは「音節」について。これから行う内容を開始前にレポートすることは効果的だと思う(予習になる)。来た者から書かせ、チャイム後五分で終了。用紙はその後は渡さない。

3、(導入) 授業についての説明。ちょっと

した良い話、一週間の出来事など話す。これは最終回まで続けた。レポートミスの注意。レポートの優秀作品一一名の内容紹介と評価。

4、(授業) 「音節の種類」の復習と「アクセント」。五十音図が書けない。高低アクセントと強弱アクセントの相違に興味をひかれていたようだ。

五 アクセント

一 言語と文字

二 漢字

5、(レポート作成) 挨拶後、「アクセント」というテーマで書かせる。そろそろ感想から離れ、内容をまとめさせるように方向付ける。

6、(レポート提出と返却) 壇上の所定の場所で行い、優秀者は教壇で受け取る。

7、(反省) パソコンは少し慣れたが、まだまだ。わからなくなると、学生が助けたりしてくる。レポート返却には相変わらず時間がかかる。早く書いた学生に返却を手伝ってもらうことは考えているのだが、誰

を指名したらよいかかわからず、迷っている。

☆第七回 五月二三日(月)

メモリアルホール

「アクセント」「言語と文字」

○一〇時一五分ホール到着。職員の方とチェック。

1、(レポート用紙配布) 最初のテーマは、

1 「国語学概論」を受講する理由。2 「国語学概論」を受講した効果。即書かせる。

チャイム後一〇分で終了。前回までの取り残しレポートを、この時間に返却するが、遅刻者も多く、なかなか全員に渡らない。

2、(導入) 授業についての説明。前回同様、

九〇分が楽しめるように、教師の側、受講生の側、お互いに注意をするように伝える。成績優秀者五名の内容を紹介し、評価する。

3、(授業) 「いろは歌」「あめつちの歌」「たゐにの歌」が中心。みな面白がっていた。

五 アクセント(いろは歌)

一 言語と文字

二 漢字

4、(レポート作成) 挨拶後、「国語学概論をよりよくするために(遅刻・私語・レポート等)」というテーマをあげ、建設的な意見を求める。

5、(レポート返却) 今までどおり。

6、(反省) 七回目ということで、慣れが生じている面もある。パソコンにも打開策が必要だし、私語・遅刻、返却の混雑など、いろいろな問題点を解決するために、受講生の意見を直接聞くことにした。はたして、様々な意見が続出した。それを読むのはつらかったが、これを把握しないことには自分の成長も、よりよい授業もない。反省すべき点は反省。

☆第八回 五月三〇日(月)

メモリアルホール

「アクセント」「言語と文字」

〇一〇時一五分ホール到着 職員の方と学生とチェック、確認。来週は、前もって設定していたただけにする。そろそろ独立

しなくては。

1、(レポート用紙配布) 今回は、用紙に日付をいれてみた。三五〇名分の用紙に日付をいれるのは大変だが、時にこうすることで、前もって用紙を手に入れることを防ぐことが可能かもしれないという工夫である。

なお、返却レポートは最後に返すのではなく、優秀者レポートで直接教師が返す学生以外は、授業開始前に教壇において、自由に各自持ち帰るようにした。これはかなり混雑緩和に役立ったようだ。最初のテーマは一〇時三五分発表。「仮名の成立」について。四五分終了。前回のレポートで、授業中、私語や食事、メールなどが気になるという学生が意外と多かったので、今回から、授業中に、三回ほど巡回し、注意・集中させること、取り残しレポートの返却などを行うことにした。

2、(導入) 授業についての説明。ならびに反省を伝える。教師側でも、大声、失言、早口、早く進めることなどには注意するの

意を払ってほしいと伝えた。成績優秀者九名、内容を紹介し、拍手で評価。

3、(授業) 「漢字」中心。「六書」がわからない。とくに「仮借」を詳しく説明する。

二 漢字

三 日本における漢字

四 かな 万葉仮名

5、(レポート作成) テーマは、「若者言葉」について。

6、(レポート提出と返却) 結局、学生に依頼することはやめる。開始前に配り始めておけば、何とかかなりそうだとわかったから。

7、(反省) 学生のレポートの、授業への意見(というより不満)は、まとめておいた。ポイントは、やさしく、ゆっくりと講義を進めるのが、女子大生にとっては一番だということ。それを理解しないで、いくら熱心に進めても授業は円滑にはいかない。それをふまえて今回から、また新たな前進をすることにした。現時点での問題は、一年の受講生がやたら多く、開始前から返却しても受け取りの混雑が容易に緩和されない

ということである。

☆第九回 六月六日(月)

メモリアルホール

「言語と文字」「漢字」

○一〇時一五分ホール到着 今回は、事前
に調整をさせていただいた。ただ、照明が明
るいので、画面が見にくく、結局一度、ホ
ールまで職員の方に来て頂いた。もう少し
機械に強くならなくては、と反省。後は、
一人で、チェック完了。

- 1、(レポート用紙配布)最初のテーマは一
〇時三〇分発表と早める。チャイムが鳴っ
たらなるべく早く授業に入りたいからだ。
「よいレポートとは」について、即書させる。
その間、巡回し、チャイム後五分で終了。
その時点で、レポート用紙の配布はしない。
2、(導入)挨拶後、いつものように、授業
についての説明。レポートの優秀作品六名
の内容を紹介し、拍手。氏名のポイントを
大きくし、画面に目立つようにした。
- 3、授業 「日本における漢字」が中心。た

だし前回の「転注」と「仮借」がわからな
い学生が多かったので、再度説明しなおよ
した。

二 漢字☆転注と仮借

三 日本における漢字 かな(一)万葉
仮名

4、(レポート作成)挨拶後、「漢字は必要
か」について、テーマを発表。一〇分を目
標に書かせる。みな、かなり早く書けるよ
うになったが、一二時一〇分では終了しな
いのが悩み。

5、(来週の子告)レポート返却、提出はい
つものとおりに。提出者は、教壇の前を横切
るので、つとめて一人一人「ごきげんよう」
を言い交わすようにする。

6、(反省)学生に不満を言わせてから、授
業が相当やりやすくなった。こちらも学生
の気持ちかわかるし、学生も言いたいこと
を言えたという満足感、自分を理解しても
らっているという安心感、安心感が生まれたい
だろう。一年のレポート返却は何とかしな
くてはならない。

☆第一〇回 六月一三日(月)

メモリアルホール

「漢字」「日本における漢字」

○一〇時一五分ホール到着。いつものよう
にチェック。

1、(レポート用紙配布)いつもどおり。テ
ーマは一〇時三〇分発表。「私語と遅刻」に
ついて。その間、巡回し、学生のチェック
と注意。前回は、教師が大いに叩かれたの
で、今回のテーマは、学生自身に、痛いテ
ーマである。教師の逆襲といったところ。

2、(導入)いつもどおり、挨拶の後、授業
の説明・注意。レポートの優秀作品五名の
内容の紹介と評価。「いろは歌」を独自に作
成した学生の紹介と評価。

3、(授業)「日本における漢字」が中心。
「重箱読み」と「湯桶読み」がわからない。
十分時間をとって理解させるが、自分で判
断することが完全にはできない。

三 日本における漢字☆重箱読みと湯桶
読み

四 かな(一)万葉仮名

4、(レポート作成)挨拶後、テーマ、「万葉仮名」について、を発表、作成。

5、(来週の予告)レポート提出と返却(注意)につき、一年生の分については、三等分した。これによって混雑はかなり解消されたと思う。

6、(反省)今回は、二点の工夫をした。一つは、私語と遅刻を少なくさせるために、全員に「私語と遅刻」をテーマにレポートを書かせたこと。各自の問題として意識させるためである。また、一年生の返却は一人分程度に三等分して返却することにした。前述したが、これで混雑が相当緩和されたと思う。工夫はするものであることを思い知った。

☆第一二回 六月二〇日(月)

メモリアルホール

「かな」「万葉がな」「ひらがな」

「かたかな」

〇一〇時一五分ホール到着 いつものようにチェック。

1、(レポート用紙配布)いつもどおりである。大部分の学生は、記入ミスもなくなった。記入ミスする者は特定の学生のみである。最初のテーマは一〇時三〇分発表。「公開授業」について、である。FD委員会にお願いし、来週、公開授業をさせていただくことになった。それを授業の最初と最後に伝え、学生の意識を高めた。

2、(導入)いつもどおり、挨拶後、かなの実際の例をあげて、如何に当時の日本人が漢字を習得するのに苦労したかについての説明。そしてレポートの優秀作品三名紹介

3、(授業)「万葉仮名」が中心。かなの元になった漢字に興味を強く持ったようだ。試みに、万葉仮名でレポートを書かせてみた。

四 かな(一)万葉仮名 万葉仮名表

ひらがな字源表 カタカナ字源表(二)

ひらがな(三)かたかな(四)かなづかい

4、(レポート作成)挨拶後、テーマ、「万葉仮名の存在価値」を書かせる。ここで、一つ注文をつけた。それは万葉仮名でレポートを書くというもの。これは大ブーイングだった。

5、(レポート提出と返却)一年生を三等分することで、スムーズに行くようになった。

6、(反省)次回の公開授業について、レポートさせたのはよかったと思う。公開授業について意識が高まった。万葉仮名について書かせたのも良かったのだが、こちらが読むのが大変だった。大失敗。普段の倍以上かかった。学生は、「つつちーも大変なんだから」と書いたのがあたってしまった。不用意にテーマは出すものではない。

☆第一二回 六月二七日(月)

メモリアルホール

「かな」「かなづかい」

〇一〇時一五分ホール到着。公開授業なので、本日は、気合をいれてスーツ姿。いつもどおりチェック。学生の雰囲気もどこか違う。

1、(レポート用紙配布)いつもどおり。最初のテーマは一〇時三〇分発表。「流行語」

について。公開授業なので、書きやすいテーマにしてみた。「若者言葉」との関連も見なかった。

2、(導入)挨拶後、公開授業であることを意識させながら、いつものように説明、注意。心なしか、学生の態度がいつもと違う、よそいきである。こういう雰囲気もたまにはいい。こういう時は、「はれ」といって、スーツを着るものだとすることを伝える。優秀作品七名紹介。今回より、授業内容をフロッピーにあらかじめうちこんでおく。万葉仮名で書いた優秀作品を画面で見、その表現の面白さ・意外性に大笑い。これは作戦がうまくいった。

3、(授業)「かな」が中心。前回の「万葉仮名」をからめて展開。万葉仮名から平仮名、カタカナへの変遷に注目。意外と原型をとどめていたり、学生は興味津々。

四 かな(四)かなづかい(五)漢字とひらがな・かたかなの適用

1、(レポート作成)挨拶の後、テーマ、「カタカナの存在価値」について、一〇分を目

標に書かせる。出席くださった先生方、学生たちにはここでお帰りいただいた。

2、(レポート提出と返却)順調。

3、(反省)公開授業ということで、教師も学生も少なからず緊張していた。しかし、終了後は、さわやかな気持ちだった。いつもに比較し、私語も遅刻も少なかったように思えた。またパソコンにあらかじめ板書を入力しておいたのは正解だった。パワーポイントほどではないが、スムーズに進むという効果があったと思う。

☆第一三回 七月四日(月)

メモリアルホール

「かなづかい」「語彙」

〇一〇時一五分ホール到着 いつもどおり
チェック。

1、(レポート用紙配布)いつもどおり。テーマは一〇時三〇分発表。「大学に来る理由は何か」について、到着順に書き始めさせる。一時間目の授業がある者は大変だが、それをものともせず、みな一生懸命書いて

いる。少なくとも、書く事については平気になったようだ。教師が学生に与えてあげられるものの一つが、文章を書くことになれることだと思う。その点では、よい指導が出来たと思う。今日のテーマもかなり強烈だったらしい。

2、(導入)挨拶後、授業についての説明。レポートの優秀作品七名の内容紹介と評価
3、(授業)「かな」が中心。「かなづかい」に興味を持ったようだ。助詞の「を・は・へ」、「じ・ぢ」「ず・づ」など。実際に役に立つ授業となった。

四 かな(五)漢字とひらがな・かたかなの適用 第四章 語彙

一 語彙とは何か

二 国語の語彙

4、(レポート作成)挨拶後、本日のテーマ、「かなづかい」について。いつもどおり。
5、(レポート提出と返却)いつもどおり。スムーズになってよかった。

6、(反省)今回もフロッピーにあらかじめ打ち込んできた。打ち込むのは大変だが、

予習を兼ねるので、とても効果的である。少人数ならともかく、三五〇名もいる場合、立ち往生することは許されないのである。三五〇名が一体化した授業、なかなか感動的である。

☆第一四回 七月一四日(月)

メモリアルホール

「国語の語彙」「位相語」

○一〇時一五分ホール到着 いつもどおりチェックの後、最終回の試験日の座席指定表をホール両面に張る。そのように指定しないと、ノートチェックが不可能になるのである。

1、(レポート用紙配布)いつもどおり。テーマは一〇時三〇分発表。「擬音語と擬態語」について、到着順にどんどん書かせる。四五分終了。

2、(導入)挨拶後、いつもどおり。レポートの優秀作品三名の内容紹介と評価。

3、(授業)「国語の語彙」が中心。日本語が「和語」「漢語」「外来語」の三相からなり、

文字もそれぞれ、平仮名、漢字、カタカナ、となっていることに納得と感動をしていた。

二 国語の語彙

三 位相語

四 単純語と複合語

五 擬音語と擬態語

4、(レポート作成)挨拶後、本日のテーマ、「位相語」について、を書く。ただし、本日はアンケート記入があるので、一一時三五分～一一時五〇分、で書く。

5、(アンケート)一一時三五分から、アンケート用紙を配る。記入はレポート完成後。レポートは出来る限り集めてから退出。遅れたものは、一二時三〇分までに2780研究室に提出。アンケートの整理は、三年の太田君以下三名が引き受けてくれた。

6、(来週の予告)七月二五日(小論文提出)の提出レポートの題目は、「日本語の長所(表)」「日本語の短所(裏)」、これも画面に表示しておいた。「当日は、ノート・テキストチェック、感想文を書く。指定席に座る」ことなどを画面と口頭で伝える。レ

ポート提出と返却はいつもどおり、最後なので、できるかぎり多くの学生に「ごきげんよう」を伝える。

7、(反省)春学期でもっとも大変な授業だった。人数の多さ、それにつきる。遅刻・私語をどう抑えるか。全員に国語学について理解・満足させるにはどうするか。出席評価はどうするか。問題は山積みであった。とにかく毎回真剣勝負、具体的に一つ一つ、問題を解決していくしかない。そして、中間点・折り返しで、授業批評させたこと。

自分への非難の言葉を八時間かけて採点した時は、地獄。でも採点し終えてすっきりした。自分は神様ではないのだから、出来る限り、学生の希望に添うようにしてやればよいだけのことだ、と悟ったとき、安らかな気持ちになった。教授としての変なプライドなどいらぬ。僕は学生と、タメで向かい合っているんだから、ということだ。結論は簡単だった。そして、公開授業までさせていただいた。最終回、協力してくれた学生たちに、せめてもの御礼として、さ

だまさしの「無縁坂」を熱唱した。ありがとう350名の学生たち、また秋に会おう。

☆第一五回 七月二五日(月)

メモリアルホール

「小論文提出」

○一〇時一五分ホール到着。いつもどおりチェック・調整後、座席指定表をホール両面に張る。

1、(レポート用紙配布)いつもどおり。提出用レポートは既に宿題としている。本日のテーマは一〇時三〇分発表。「国語学概論に取り組んだ自分の姿勢」について、である。なお、今回のレポートについては、とくに問題ない限り、返却しないことと、小論文も同様で、受け取りたい者は各自教師の研究室まで個人的に来ることを伝える。作成中に、巡回、導入までに出きるだけレポートを返却、ノート・テキストも出きるだけ見て、チェック。

2、(導入)「ごきげんよう」の挨拶。優秀作品八名を紹介。今回は掲示のみとする。

3、(授業)講義自体はない。レポート作成とチェックである。

小論文は各自提出。過去のレポートは各自受け取る。作品は表示にとどめ、ノート・テキストチェックをまず完了させる。ノート・テキストには印鑑をおす。チェックは、最初は壇上で行い、後は巡回する。優秀作品についても壇上で返す。

4、(レポート作成)ここで、最後の「ごきげんよう!」の挨拶を大合唱。最後のテーマ、「後期はどういう姿勢でむかうか」について、を書く。

5、(終了)レポートを提出しながら解散。

6、(反省)三五〇名などという大人数の講義(授業)は初めての経験。実は、やれるわけがないと思うほど、半分はやけっぱち。しかし、開き直り、熱意をもって、学生と講義に真剣にぶつかったのがよかった。試験日を含めて一五回、一度の遅刻も無く、全力で駆け抜けることができたのが幸せだった。この「国語学概論」は、僕の大学教育への情熱をかきたててくれた。こういう

講義を与えてくれた大学に心から感謝したい。